

母国語教室

英国国際教育研究所
こどもの未来研究室

募集要項

2018/2019

へいのちをを支えることば

英国国際教育研究所

所長 図師 照幸

人類が直立歩行するようになると、大脳が徐々に拡大する。直立歩行するようになる前と後とではその大脳の大きさには三倍もの開きがあるという。

ところがその直立歩行はまた、女性の産道の縮小をもたらす。そこで人間は、縮小した産道から拡大した頭を持つ胎児を安全に産出するために、つまりこの進化の矛盾を解決するために、胎児の頭が大きくなりすぎないうちに産出しようとする「生理的早産」を行うようになる。

そしてその結果、新生児は他の動物に比べて自立性の乏しい、つまり自分で立つことも、食物を探すこともできない存在として未熟なままこの世に生まれてくる。

そこには周りの人間の助けが必要で、その助けを求めるための言語が必要となる。へことばは我々がそのへ生を支えるための必然としてあったのである。コミュニケーションを支えるへことばは、へいのちを支える道具でもあった。

そのへことばをできうる限り大切にしたいと思う。へひとという生物学的存在から、社会的存在としてのへ人間として、つまりはへ他とのコミュニケーションをあたたく豊かなものとして成立させようとするそういつたへことばを獲得したい。

英国国際教育研究所(Institute of International Education in London=IIEL)は、英国ロンドンに本部を置く国際教育研究機関です。国際教育という視点から、教育本来の位置付けを試みるという理念の下、研究および教育実践活動を展開しています。英国の統一試験である中等教育終了試験(GCSE)および大学入学資格試験(GCE-A レベル)を実施する国の公的試験センター(National Examination Centre)としての活動や、日本語学、言語学、日本語教育、言語教育を研究対象とする「日本語教育協議会(The Council of Japanese Language Teaching=CJLT)」および日英の教育制度や教育問題さらに文化研究をその主たる研究対象とする「日英の教育と文化に関する研究協議会(The Council of Anglo-Japanese Education and Culture=CAJEC)」といった両学会の本部として、総会ならびに研究発表大会の開催、研究紀要や会報の刊行等の活動を行なっています。また、英国国際教育研究所の日本語教育学研究科は、大学院修士号(MA)および Postgraduate-Diploma/Certificate をそれぞれ授与する大学院大学として機能しています。さらに、研究所附属の外国語教育機関である London Language Centre(LLC)では、英国政府国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシル認定の英語教育とともに、外国語としての日本語教育に取り組んでいます。

母国語教室は、現地校に通学する子どもたちを対象にした〈ことば〉の教室です。日本で生まれ日本に育つ人が学ぶ〈国語〉、日本以外で生まれ育った人が外国語として学ぶ〈日本語〉、そして、そのいずれでもなく、国際的な環境の中で日本的なバックグラウンドを持つ人が学ぶものに〈母国語〉があります。

母国語教室の原点は、やさしい豊かな〈ことば〉が学習者の体内で芽生えていくことです。英語の生活のなかで失われつつある日本語の力を、独自のカリキュラムと教授法で呼び戻し育てていくための教室です。

〈ことば〉は、単なる道具ではありません。乾いた〈ことば〉ではなく、みずみずしい生命を持った〈ことば〉の学習を目指しています。

募 集 ク ラ ス

ク ラ ス	レ ベ ル	募集人数
基礎クラス I・II 基礎クラス III～VIII GCSE クラス A1 クラス A2 クラス ゼミ<新聞を読む>	日常会話の基礎をつくる 日常会話＋日本語力を育てる GCSE 試験対策 GCE-A level 試験対策 (2020 年受験) GCE-A level Unit 2 試験対策 (2019 年受験) 日本の新聞を読む力を養成する	各 12 名 程度

※クラスによっては 10 名を超える場合もあります。

各クラスの到達目標

基礎クラス I・II

日本語に慣れ、日常会話の基礎ができることを第一目標にする。なお、学習者の到達度によって基礎クラス III への編入を行う。

基礎クラス III～VIII

日常会話力の向上・定着を目指すとともに、日本語力のうちの「読む・書く」力の伸長を意図する。

GCSE クラス

基礎的な日本語力のある生徒を対象として設置する。総合的な日本語力の成長を意図するとともに、英国における統一試験である GCSE JAPANESE の求める日本語力をつける。

A1/A2 クラス

中級程度の日本語力のある生徒を対象として設置する。総合的な日本語力の成長を意図するとともに、英国における統一試験である Advanced GCE (GCE-A level) JAPANESE の求める日本語力をつける。

ゼミ<新聞を読む>

GCE-A level 以上の日本語力のある生徒を対象として設置する。日本の新聞を読む力をつけるとともに日本の社会、文化等に関する分析力を養成する。

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 内容例 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

ユニット1

太郎君の手紙／花子さんの手紙

- ① 日本に住む同世代の友人からの手紙を読む。それによって今の日本を同じ子どもの目によって知る。新しい言葉、新しい社会を知る。それは、大人にとっては都合のいいものばかりではないけれども、たとえばマンガの世界も含んだものとなるが、そのようなエネルギーがあつてはじめて子どもの伸び伸びとした成長が保障されることになる。
- ② 手紙の返事を書く。それによって自分の住む世界をじっくり見つめる習慣をつける。言葉は単なる技術ではない。

【言語事項・理解・表現】

ユニット2

漢字遊び

- ① 難しいイメージの漢字が、実際はどんなにおもしろいものであるかを遊びの形で学習する。特に字源学習を中心に置く。
- ② 教育漢字の学習がすべて網羅されるように、かつ、より効果的に学習することができるように配置する。

【言語事項】

ユニット3

ことばのパトロール

- ① いわゆる「ことばのきまり」であるが、文法のための文法に終わらぬように注意する。そのためここでは、間違った言葉づかいの例を毎回二例ないし三例挙げてそれを正しくなおす形で学習する。
- ② 具体例のみの羅列に終わらぬように文法事項の一般化・体系化を図る。

【言語事項】

ユニット4

大きな声で

- ① 発声および朗読の学習である。音読には黙読にはない文章の流れを予知しながら読むという効果や感情を移入しながら読むことによる読解の深化という効果などがある。
- ② ときに群読も行う。

【表現】

ユニット5

ほくの耳はアンテナ

- ① あらゆる学習のなかで、今もっとも重要といえるのは「聴くこと」の学習である。正確に、豊かに聴くことを学習する。
- ② テープ教材を用いる。内容は、文学教材・ラジオ番組・会話など広い範囲にわたる。
- ③ 聴く力を試すために、聴いた後でワークシートによる確認が毎回行われる。

【理解】

ユニット6

ほくの考え／わたしの意見

- ① ことばの力は他人に向かってまとまった意見(思想)の形で発信されるとき、総合的に訓練されることになる。そこでは十分に吸収され整理された知識をもとに、相手に対する効果的表現方法が工夫されなければならない。ここでは、あらかじめ与えられたテーマについて、その週の担当者(学習者)が意見を発表することで学習が始まることになる。
- ② ここではまた同時に、聴くことの学習も行われることになる。友達意見を聞くことによって自分の考えを考証する作業が始まる。
- ③ そして、討議が始まる。思わぬ展開に柔軟に対応することのできる言葉の力と論理構成力を養成する。

【理解・表現・言語事項】

SユニットA

ものがたり大好き

- ①まとまりのある物語を読むことによって、日常に潜む真理を、日常には見えにくい世界の可能性を知る。また、登場人物と共に文学の世界に生きることによって自分をみつめる目を養う。

【理解】

SユニットB

一冊の本

- ①今まで自分の読んだ本のなかでもっとも感動した本の一つを選んで、みんなに紹介する。発表の前には、資料を作る。
- ②友達の発表する本を参考にして自分の読書計画を立てる。

【言語事項・表現・理解】

SユニットC

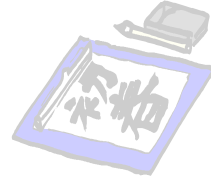
ことばのテスト

- ①定期的に、言語事項・理解・表現の各分野についての確認をする。ペーパーテストのみを意味するのではない。

【言語事項・理解・表現】

筆に親しもう(書道)

- ①太かったり、細かったり、濃かったり、薄かったり…筆で書いた字っておもしろいなあ。
- ②書道を通して、筆順や言葉の意味を学ぶ。準備・後片付けを自分でする。書道に取り組むときの作法を学ぶ。



母国語教室の作文から

日本語はぼくにとってとても大事だとぼくは思います。母国語を大切にしないと自分のアイデンティティーがなくなります。だから、ぼくのように、イギリスの学校に通って、一日中英語を使っていると、ますます日本語を大切にしなければいけないと思います。

けれども、それは少しまじめすぎる考えかもしれません。ぼくが日本語を勉強しようとするのは、言語を学ぶのが好きだからなのです。いろいろな国の人たちとコミュニケーションできるということはとても楽しいことです。

そしてまた、ぼくはとにかく日本という国が大好きなのです。日本人、日本の食べ物、日本の映画、全部好きですから、日本語も好きになって当然です。日本語ができなかったら、日本のテレビ番組やマンガは楽しめません。

日本が好きだから、日本のものが好きだから、自然に日本語も覚えていきます。たとえば、ぼくは日本のマンガを読むのが大好きです。いつも読んでるので、何回も出てくる漢字や言葉、日本人がすることをいつの間にか覚えてしまいます。

母国語を勉強するには、自分の国とその国の習慣、考え方や生活様式などに興味がないと楽しめないとぼくは思います。

言語の力、特に母国語の力をなくしては人間は自分自身を完全に理解することができないのです。

募集要項

開講予定日

	87期	88期	89期
基礎 クラス	9月15日～12月1日 (10月20日・27日を除く) 午前10:00～12:00 【土曜日 全10日】	1月12日～3月30日 (2月16日・23日を除く) 午前10:00～12:00 【土曜日 全10日】	4月27日～7月6日 (6月1日を除く) 午前10:00～12:00 【土曜日 全10日】
GCSE クラス	9月15日～12月1日 (10月20日・27日を除く) 午後1:30～3:30 【土曜日 全10日】	1月12日～3月30日 (2月16日・23日を除く) 午後1:30～3:30 【土曜日 全10日】	4月6日～5月18日 (4月20日を除く) 午後1:30～ <u>4:45</u> 【土曜日 全6日】
A1 クラス (2020年受験) ※新試験	9月15日～12月1日 (10月20日・27日を除く) 午後1:30～3:30 【土曜日 全10日】	1月12日～3月30日 (2月16日・23日を除く) 午後1:30～3:30 【土曜日 全10日】	4月27日～7月6日 (6月1日を除く) 午後1:30～3:30 【土曜日 全10日】
A1 クラス (2019年受験) ※新試験で はありません	9月15日～12月1日 (10月20日・27日を除く) 午後1:30～3:30 【土曜日 全10日】	1月12日～3月30日 (2月16日・23日を除く) 午後1:30～3:30 【土曜日 全10日】	4月6日～6月1日 (4月20日を除く) 午後1:30～ <u>4:00</u> 【土曜日 全8日】

キャンパス

授業はロンドン大学 UCL(University College London, 21 University Street, London WC1E 6DE)にて行われます。最寄駅は Euston Square/Warren Street または Euston です。

応募資格

- (1) 日本語を母国語として、あるいはそれに準ずる形で学ぶ児童・生徒。
- (2) 真面目で学習意欲のある児童・生徒。
- (3) 保護者(または代理)が責任をもって送迎してください。ただし、Secondary School の生徒は自分一人で通学しても構いません。(保護者責任下)



出願手続

- (1) 出願期間 随時
- (2) 書類送付先 Institute of International Education in London
Charlton House, Charlton Road, Charlton, London SE7 8RE
(注)「母国語教室」と封筒にお書きください。
- (3) 提出書類等
- ① 入学願書 別紙定型
写真貼付。最近3ヵ月以内に撮影したもの
- ② 受験料 10ポンド(Chequeを同封してください)
宛名 / Institute of International Education in London
(注)一旦提出された出願書類は一切返却致しません。

入学試験

- (1) 試験日 随時(事務局よりお知らせ致します。また、ご希望の曜日・時間
などがありましたら、入学願書にその旨お書きください。)
- (2) 試験会場 英国国際教育研究所
- (3) 試験科目 面接(試験クラスは筆記試験)

合格通知

- (1) 可否結果は、試験日の2日後に連絡します。

入学手続き

- (1) 合格通知と一緒に「入学手続要領」を送付します。

1タームの学費

一人の場合	£280.00
兄弟姉妹二人の場合	£504.00
兄弟姉妹三人の場合	£672.00

Cheque の支払先

Institute of International Education in London

Cheque の送付先

Institute of International Education in London
Charlton House, Charlton Road, Charlton, London SE7 8RE

- (注) 一旦提出された学費は、理由の如何を問わず(タームの途中で退学された場合も含む)一切返却致しません。
- (注) 学費には研究所で配布されるオリジナル・ハンドアウト以外の教材費(教科書代等)は含まれません。また、基礎クラス受講生には書道セットを準備していただきます。



Institute of International Education in London

www.iiel.org.uk

お問い合わせ先

IIEL, Charlton House, Charlton Road, Charlton, London SE7 8RE. UK

Tel 020-8331-3100 E-mail enquiries@iiel.org.uk